当日配布資料２

令和5年度　実務者会　報告

令和5年度実務者会　取り組みについて

座談会

座談会実施
7月26日　2グループ
8月1日　1グループ

教育と福祉の連携

特別支援教育センターと共催
座談会実施
8月10日　1グループ（予定）

第2回　実務者会
座談会報告・全体総括・取り組み案たたき台作成

第3回　実務者会
取り組み案の絞り込み・ヒアリングの必要性を検討

第4回　実務者会
来年度専門部会取り組み案の具体化

令和4年度 専門部会評価

第1回実務者会
昨年度座談会で出た困りごと、要望をまとめた表を用いて、構成員で振り返りを実施。

令和5年度 専門部会評価

年度末に振り返りを行うために令和5年度専門部会を傍聴。進捗の確認をし、振り返りの基準について検討する。

令和5年度
専門部会の進捗確認と振り返り

令和5年度　木下先生による評価講評

令和5年度実務者会 「教育と福祉の連携」取り組みの経緯

令和4年度

経緯

令和4年度座談会を開催し、抽出された課題について困りごと・要望について取りまとめ、専門部会での取り組みについて議論を重ねた

▼

専門部会ではライフステージ全体を可視化できる仕組み作りに取り組む。教育と福祉を網羅したライフステージ全体を可視化できるツールなどを作成する。

＋

次年度実務者会では学校教育関係者にも加わって頂き、継続して「一人一人に合わせた教育と福祉の協働」について検討・議論していきたい。

教育と福祉について座談会で語られた課題や困りごと・ニーズは少なくなかった。

令和4年度の構成員には教育の専門家がいなかった。

令和5年度

実績

令和5年度　構成員として特別支援教育センターにご参画いただいた。

今後の進め方について特別支援教育センターと相談。今後のすすめ方について意見を伺った。

- 課題を感じている保護者の意見の吸い上げ方に工夫が必要。
- 保護者支援がこどもへの支援にもつながる。
- 個別ケースだけでなく、広く保護者の意見を聞く場の必要性

➡ 保護者と特別支援教育センターの先生で、座談会のような場を設けて困りごとや不安感、将来への悩みなどを吸い上げる場を設定するのはどうか。

⬇

8月　特別支援教育センターによる小中学校生保護者との“座談会”の開催決定

7月26日（水）実施　グループ1の座談会まとめ

必要な情報を適切な時期に手に入れたい。情報を『生きた支援』につなげたい。

すでにまとめられている情報が、必要な人の手に届いていないのでは？

『情報』だけではなく、生きた支援につなげるためには本人を知ってもらうための工夫が必要。

誰に何を聴いたらいいかわからない

- 窓口で担当者にきいても、担当者によって回答が違う。混乱してしまい余計に不安になる。
- リハビリや福祉サービスのことを知る機会が少ない。

『将来』に対する不安

- ライフステージごとに何をすればよいのかわからない。

『情報』を生きた支援につなげるために

- こどもが成長し、社会で生きていくためにはコミュニケーションが大切。
- どう支援してもらいたいか、保護者の成長に対する願いなどを学校や支援者に伝えることが必要。
- 本人を知ってもらうための工夫がいる。

すでにある情報にたどり着かない

- 『今』欲しい情報や『今』必要な情報がどこにあるのか、わからない。
- 出産時にも色々な冊子や情報をもらっているはずだが、必要な時には忘れている。
- 事前にたくさんの情報をもらってもすべてを把握することはできない。

情報を渡す適切なタイミングはいつなのか？

学校や支援者とのコミュニケーション方法がわからない？

ニーズ・要望

窓口や情報を一本化して欲しい。

相談窓口を可視化して、わかりやすくして欲しい。

子育てに関する情報や支援の情報冊子は、1度だけでなく節目ごとに渡してほしい。

本人が適切な支援を受けられるようコミュニケーション方法やツールの作成方法が知りたい。

困りごと

欲しい情報があってもだれに何を聴いたらいいかわからない。

窓口で相談すると担当者ごとに違うことを言われる。混乱してしまい余計に不安になる。

色々な情報をもらっても、必要な時でないと頭に入らない。

『今』も『将来』もどうしたらいいのかわからず、適切な情報も得られず不安がつのっている。

7月26日(水)実施　グループ2の座談会まとめ

情報・知識について知ってほしい・知りたい。知ったうえで活用できる人を増やしたい。

活動を見てもらって理解につなげては？

講演会や勉強会を実施しては？

性の問題に関して知らないことが多い

- 性被害の相談を受けることがある。学校や事業所で教育してほしい。
- 福祉で性はタブー。支援者もどうする？と言うのもある。

警察や地域の人達が知らない

- もっと利用者のことを知ってほしい。地域のつながりが限定的
- 支援者の養成が必要
- わからないから怖い、だから警察呼ばれる。知ってほしい。支援者でも障がいについて知らない人が多い。
- 障がい者をケアする文化をはぐくむ。子どもは受け入れている。小さい時から取り組まないと。

事業所として、必要な情報が得られる機会を作っては？

災害について知らないことが多い

- 避難時に地域の支援をどう作っていくか。
- 災害対策についてまだ知らないことが多い。

活用してもらえる人を作りたい

情報を発信するきちんと届ける

ニーズ・要望

利用者中心にして地域とのコミニュケーションを取りたい。知ってもらいたい。

高齢者の居場所はたくさんある。就B後のほっと一息つく場として、そこをちょっと活用させてもらえたら。

性のトラブルが起こらないように事業所で教育をしてほしい。

災害時のことを考えて、地域とのつながり、事業所の横のつながりを作りたい。

困りごと

入所者が地域で「当り前の生活」をすること」が難しい。支援者とレストランに行くだけでも多くの準備がいる。

当事者や障がい特性がわからないから怖い、怖いと思われるとすぐ警察を呼ばれてしまう。

なにかあれば「すいません」から始まる。知ってくれてない事業所のことも利用者のことも。

マンパワーが足りていない。

災害・性について支援者も知らないことがある。